

とむだちのとむきちちゃん

「とむだちのとむきちちゃん」を読んで

3年 N・Kさん

わたしは、「とむだちのとむきちちゃん」という本をえびましました。その理由は、題名にすきなごぼの「とむだち」がはいつていたからです。

このお話は、小学校2年生のとむきちちゃんとそのとむだちのとむちゃん二人を中心としたお話です。とむきちちゃんは、とても物じりで人前でもどどどとお話をするせいにかくです。とむちゃんは、とむきちちゃんとはせいはいはなたいで、ひとみりではずかしがりやなせいにかくです。とむちゃんはそんなとむちゃんの発言や考えかたから色いろ学んでいきます。とむちゃんがありのぎょうれつをじつとながめてどこに行くのか考えたり、かめのこうらの中には思い出がたくさんつまっているといったり、とむきちちゃんが悪いもよらないはつそうをだしてきます。

とくに、心の中のこったお話は「さんまと木」のお話です。なぜならば主人公のとむきちちゃんとおなじくわたしもとむきちちゃんのはつそうにおどろきかんししたからです。とむちゃんはさんまを見て「前はどんなさんまだったのかなあ」といいました。わたしもとむきちちゃんもごぼのさんまと木だと思いました。次にとむちゃんは、外の木を見て「きのうの木と今日の木はおなじに見えるけど、おなじじゃないよ」「木は生まてるせん。生きていると木のうとはちよつとだけちがつちやつてるよ」といいました。わたしはこのごぼにかんしんしました。いつも見ている木やお花や家族やお友達も毎日ちがつていくんだと思いました。そんなちがついに気づいていけば新しいはつけんがあると思えました。

わたしのお友達にはとむちゃんみたいなのはいいないけど、わたしとはちがつたはつそうや考え方をしている子がいると思います。この本のとむきちちゃんとむちゃんから新しいはつけんをしたように、わたしもおなじよつなはつけんができるのではないかと思いました。

この本をよんで、二つのことを学びました。一つ目は、お友達から新しい考え方やはつそうをはつけんすることができると学びました。二つ目は、ふだん見ていた色いろな生き物は毎日かわっていくと学びました。あたりまえの毎日でも少し見方をかえるだけで新しいはつけんがあると思いました。